

定期報告（ウルグアイ内政・外交・経済：2025年5月）

【ポイント】

＜内政＞

- 11日、ウルグアイ全19県で地方選挙が実施された。
- 13日、ムヒカ元大統領が逝去した。

＜外交＞

- 9日、在香港総領事館開設及びルベッキン外相の中国CELA C会合出席。
- 27日、ウルグアイ対外経済外交に関する外相の発言。

＜経済＞

- 5月の輸出は前年比微増の11.69億ドルを記録。
- 6日に発表された不動産ランキングで中南米12都市中モンテビデオが首位。

【本文】

1 内政

（1）地方選挙の実施

11日、全19県の県知事・県議会選挙及び市長・市議会選挙が実施された。選挙裁判所が発表した開票最終結果の概要は以下ア～ウのとおり。2000年以降一貫して、地方における野党国民党の圧倒的優位の状況が続いており、今次選挙でも国民党が14県で知事職を獲得した。一方、与党拡大戦線（FA）は、獲得した知事職が3県から4県に拡大したものの、2020年の前回地方選挙と比べ、全国的に得票率を下げた（40.19%→38.9%）。特にFAの牙城である首都モンテビデオ県（7%減少）及びカネロネス県（13%減少）で減少が目立った。なお、モンテビデオ県知事選挙では、FAが48.96%を獲得し、ベルガラ元経済財務大臣が勝利した。

ア 各党別の県知事職獲得数（全19県）

	（改選前）	（選挙結果）
FA：	3県	4県
国民党：	15県	14県
コロラド党：	1県	1県

イ 県知事当選者及び所属政党（人口規模降順。※は政党交代があった県。）

	（改選前）	（選挙結果）
①モンテビデオ県	FA	→ FA マリオ・ベルガラ候補
②カネロネス県	FA	→ FA フランシスコ・レガニ候補
③マルドナド県	国民党	→ 国民党 ミゲル・アベジャ候補

④サルト県※	F A	→	共和連合党	カルロス・アルビス候補
⑤コロニア県	国民党	→	国民党	ギジェルモ・ロドリゲス候補
⑥パイサンドゥ県	国民党	→	国民党	ニコラス・オリベラ候補（再選）
⑦サン・ホセ県	国民党	→	国民党	アナ・ベンタベリ候補（再選）
⑧リベラ県	コロラド党	→	コロラド党	リチャル・サンデル候補（再選）
⑨タクアレボ県	国民党	→	国民党	ウィルソン・エスケラ候補（再選）
⑩セロ・ラルゴ県	国民党	→	国民党	クリスティアン・モレル候補
⑪ソリアノ県	国民党	→	国民党	ギジェルモ・ベソッシ候補（再選）
⑫ロチャ県	国民党	→	国民党	アレホ・ウンピエレス候補（再選）
⑬アルティガス県	国民党	→	国民党	エミリアノ・ソラビジャ候補
⑭フロリダ県	国民党	→	国民党	カルロス・エンシソ候補
⑮ドゥラスノ県	国民党	→	国民党	フェリペ・アルゴルタ候補
⑯ラバジェハ県※	国民党	→	F A	ダニエル・ヒメネス候補
⑰リオ・ネグロ県※	国民党	→	F A	ギジェルモ・レブラット候補
⑱トレインタ・イ・トレス県	国民党	→	国民党	マリオ・シルベラ候補
⑲フロレス県	国民党	→	国民党	ディエゴ・イラサバル候補

ウ 全 19 県における各党得票数合計及び得票率

拡大戦線（FA）： 9 2 0, 6 9 1 票（得票率 3 8. 9 0 %）

国民党： 5 4 0, 5 5 9 票（得票率 2 2. 8 4 %）

コロラド党： 9 2, 7 7 4 票（得票率 3. 9 2 %）

開かれた市民集会党： 6, 5 0 4 票（得票率 0. 2 7 %）

共和連合党： 5 2 8, 5 0 9 票（得票率 2 2. 3 3 %）

※国民党、コロラド党、市民集会党の票は含まれない。

環境急進派： 1, 0 0 2 票（得票率 0. 0 4 %）

人民議会： 7, 1 4 8 票（得票率 0. 3 0 %）

白票： 8 3, 0 3 0 票（得票率 3. 5 1 %）

無効票： 8 7, 3 2 4 票（得票率 3. 6 9 %）

無効観察票： 2 4 7 票（得票率 0. 0 1 %）

一部白票： 9 9, 0 8 6 票（得票率 4. 1 9 %）

投票数合計： 2, 3 6 6, 8 7 4 票

有権者数： 2, 7 2 4, 1 8 4 人

投票率： 8 6. 8 8 %

（２）ムヒカ元大統領の逝去

１３日、癌を患い自宅療養中であったムヒカ元大統領が８９歳で逝去した。翌日から３日間、国家哀悼のため国内外の全政府機関で半旗掲揚が行われ、１４日及び１５日、国会議事堂で国葬が執り行われた。葬儀には政党派閥を超えた元大統領を始めとする政界関係者、ルーラ・ブラジル大統領及びボリッチ・チリ大統領、外交団、多数の一般市民等約６万人が追悼に訪れた。オルシ大統領は、ムヒカ元大統領の共感力、簡素さ、儉約が親近感を生むのだと述懐し、また、政治とは意見の異なる者同士が合意点を見つける作業であると教示した元大統領の功績を強調した。政治専門家は、ムヒカ亡き後、同元大統領の派閥である人民参加運動（ＭＰＰ）は、ムヒカ夫人のトポランスキー元副大統領、オルシ大統領、サンチェス大統領府長官を中心に、引き続き与党最大派閥として政界を牽引するだろうと述べた。

２ 外交

（１）在香港総領事館開設及びルベッキン外相の中国ＣＥＬＡＣ会合出席

９日、マカオ特別行政区を管轄下に含む在香港ウルグアイ総領事館が開設され、開設式典にルベッキン外相が出席した。同外相は、香港への鶏肉等の輸出拡大及び品目多様化を目指しており、在香港総領事館が領事業務の他、投資誘致及びビジネス振興において果たす役割に期待を表した。また、１３日、同相は北京で開催された第４回中国・ＣＥＬＡＣ閣僚級会合に出席し、「ＣＥＬＡＣ加盟国経済が中国及び世界のサプライチェーン・生産ネットワークと統合することは喫緊の課題である。」と演説した。なお、１５日、中国は、ウルグアイを含む南米５か国（ブラジル、アルゼンチン、チリ、ペルー）に対する１年間の査免措置を２０２５年６月１日から試験的に実施すると発表した。これにより、査証無しで３０日以内のビジネス、観光、留学目的による中国訪問又はトランジットが可能となる。

（２）ウルグアイ対外経済外交に関する外相発言

２７日及び２９日付け当地主要紙に掲載されたルベッキン外相のインタビュー記事で、同外相は、ブラジルのメルコスール議長国下の１２月にＥＵメルコスールＦＴＡの署名を目指しており、「現実的な楽観主義を裏付ける一連のシナリオが整いつつあり、年内に署名されるべきだと考えている。」と述べた。国際情勢の変化により、これまで締結に懐疑的又は拒否していた、例えばオーストリアやベルギーのような国々が立場を変えつつあると説明した。また、「（ＥＵとの合意後は）間違いなくアジア諸国、ＡＳＥＡＮ、また、ＵＡＥ等の湾岸諸国が優先される」と述べた。一方、ＣＰＴＰＰについて、「ＣＰＴＰＰを放棄するつもりはない。どの道も放棄しないが、実現可能なものにさらに注力するつもりである。しかし、加盟にはコンセンサスが必要であるが、ウルグアイの加盟を望まない国もある。」との見方を表した。また、ウルグアイの外交方針は自由貿易の拡大、関税ゼロの国を拡大することであると述べ、その理由は雇用の創出及び国民の経済的・社会的発展であり、そのために対外輸出の拡大が不可欠であり、輸出するための市場拡大が必要であると説明した。

3 経済

(1) 5月の輸出統計

ウルグアイ21（貿易投資促進庁）が発表した5月の貿易レポートによると、5月の輸出は前年同月比微増の11.69億ドルで、2025年1月から5月までの合計は51.19億ドルを記録し、前年同期比4%増となった。5月の輸出を牽引したのは牛肉（前年同月比35%増）、セルロース（同24%増）、車（同43%増）で、一方、大豆及び米は31%減、乳製品も10%減となった。5月の牛肉の輸出先第一位は引き続き米国（牛肉輸出の32%）が占め、EU（29%）、中国（24%）と続いた。一方、総合的な輸出先の第一位は中国（23%）で、続いてEU（18%）、ブラジル（14%）、米国（11%）、メキシコ（4%）の順であった。

(2) 不動産ランキングでモンテビデオ首位

6日、アルゼンチンのトルクアト・ディ・テッラ大学ビジネススクール金融研究所が発表した中南米地域7か国12都市を対象にした不動産調査で、最もマンション価格が高い都市は、再度、2022年以来連続でモンテビデオとなった。本年3月時点におけるモンテビデオ中心部の一平方メートル当たりの価格中央値は3,330ドルで（例：約80平方、2LDK程度のマンションが3800万円相当）2位以下を大きく上回る突出した高値であった。モンテビデオに次いで価格が高かったのは、メキシコ・シティ（2,666ドル）、ブエノス・アイレス（2,592ドル）、グアダラハラ（2,369ドル）、サン・パウロ（2,277ドル）となり、一番安かったのは、エクアドルの首都キトで1,215ドルであった。

4 要人往来

往訪

- ・ 1日～2日：ルベッキン外相のアルゼンチン訪問（メルコスール外相会合）
- ・ 7日～14日：ルベッキン外相の中国訪問（CELA C閣僚級会合等）
- ・ 11日：ラソ国防大臣のドイツ訪問（国連PKO関連閣僚級会合）
- ・ 11日～14日：カルドナ工業エネルギー鉱業大臣のチリ訪問
- ・ 15日～21日：フラッティ農牧水産大臣の中国訪問（SIAL参加等）
- ・ 17日：ネグロ内務大臣の英国訪問
- ・ 17日：ルベッキン外相のブリュッセル訪問
- ・ 17日～24日：ルステンベルグ保健大臣のスイス訪問（WHO総会）
- ・ 18日：カルドナ工業エネルギー鉱業大臣のオランダ訪問（世界水素サミット）
- ・ 26日～29日：オルトウニョ環境大臣のペルー訪問（ラテンアメリカ水会議）
- ・ 28日～30日：フラッティ農牧水産大臣のボリビア訪問（建国2百年記念式典）
- ・ 30日：カスティージョ労働社会保障大臣のスイス訪問（ILO総会）
- ・ 30日：マイーア教育文化大臣のアルゼンチン訪問（法務大臣会合）